



令和 3 年度（2021.4～2022.9）

（半年間延長の特別措置を含む）

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
（NipCA プロジェクト）

Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource

Development Project

事業報告書（概要）

筑波大学

事業 ID: 2020565026

令和3年度（2021.4～2022.9）
（半年間延長の特別措置を含む）
「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
活動概要

筑波大学は、大学の世界展開力強化事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」（2014.3～2019.3）の教育レガシーの一部を継承・発展させた新しいグローバル人材育成事業として、公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2019年1月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（以下、NipCA プロジェクト）を開始し、2021年4月から3年目を迎えました。

本事業は、日本財団、日本・中央アジア友好財団（JACAFA）、筑波大学の三者が協力・連携し、中央アジア（アゼルバイジャンを含む6カ国）地域の「持続可能な開発目標 SDGs」の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的としております。プロジェクト3年目となる2021年度は、本学 NipCA プロジェクト運営委員会（委員長：加藤光保副学長・理事【教育担当】、副委員長：ベントン キャロライン副学長・理事【国際担当】、副委員長：原晃副学長・理事【医療担当】・附属病院長）で承認を受けた事業計画に基づき、大学執行部の助言と指導の下、実務責任者1名（教授）、実務副責任者2名（教授）、プロジェクト専従教員2名（准教授、助教各1名、当該助教は2022年6月に退職）、コーディネーター1名（University International Administrator）、研究員4名（うち1名は2022年8月に退職）、事務スタッフ2名で実務・運営を行っています。

活動内容としては、①日本財団、JACAFA、筑波大学同窓生ネットワーク連携活動、②中央アジアと日本の双方向の教育・研究交流、③中央アジアに関係する国内外のネットワーク強化や公開シンポジウム等による教育・研究成果の社会への還元を目指した基盤構築活動の3つをプロジェクトの柱として展開しています。

具体的には、筑波大学大学院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム修士課程（2021年度以降、2019～2020年度は人文社会科学研究科研究科国際地域研究専攻）の正規学生として、中央アジア及びアゼルバイジャン出身の優秀な留学生を受け入れ、留学生全員に対して、NipCA プロジェクトのフェローシップ生として、渡航費、学費、寮費、生活費が支給され、安心して学位取得のための勉学に打ち込める環境を用意しています。2021年3月には第1期 NipCA フェロー生6名（1名は病気により在学延長し、9月修了）、2022年10月には第2期 NipCA フェロー生7名（新型コロナウイルス感染症の影響による来日の大幅な遅れを考慮し、特別に半年間の修学期間を延長）が学位（修士／国際公共政策）を取得しました。将来、中央アジア諸国・地域の各界のリーダーとして社会課題解決に資する有為の人材になることが期待されています。2021年10月には第3期 NipCA フェロー生6名、2022年4月には初めて医学医療系公衆衛生

学学位プログラムで学ぶ第4期フェロー1名も入学し、現在修士論文の執筆に専念しています。フェローシップ生たちの研究活動を支える目的で、SDGs 英語文献を購入し、NipCA プロジェクト SDGs 資料室の整備も行っています。

本年度のプロジェクトは、コロナ禍の影響を依然受けており、研修事業をはじめとする多くの事業が遺憾ながら中止を余儀なくされていました。7月には、昨年度に続き、対面活動が制限されている新入生のために、「オンラインによる第一回新入生に贈る特別講演会」を開催しました。講師にはカリフォルニア大学サンディエゴ校教授當作靖彦氏をお招きし、「ウィズコロナ、アフターコロナ時代をたくましく生きるために -大学時代に学ぶべきこと、考えるべきこと-」と題する講演をしていただきました。

1年目から続く公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」は、今年度は計10回開催し、オンライン開催という場所を問わない気軽さから多くの聴講者に参加していただきました。また、2021年11月からは筑波大学 SGU 事業の一環として「Special Lecture and Discussion シリーズ“The Road to Digital Transformation to Change Society”」と題する新しい講演会シリーズを設け、デジタル技術を通じた社会変革に関する講演会を行いました。同様に2022年1月からは「Special Lecture and Discussion シリーズ “Central Eurasian Studies In East Asia And Beyond”」と題した講演会シリーズを開始し、国内外さまざまな経歴の方々から英語で日本や東アジア地域の中央ユーラシア研究をご紹介いただきました。いずれの講演会シリーズも、各分野の研究・人材育成推進に資する内容であったと確信しています。

昨年度から始めた講演会の冊子化に関しては、多言語化にも力を入れ、昨年度の第11回講演会冊子英語版に続き、4月には第11回講演会冊子モンゴル語版も刊行しました。広報誌であるニューズレター『中央アジアと日本』第5号と合わせ、計8点の刊行物を刊行しました。

今年度は講演会以外のイベントもさらに充実させることができました。昨年度末に開催し好評だった「オンラインによるロシア・中央アジア映画上映会」は、今年度2回開催し、どちらも500名を超える申し込みがあり、SDGsの理解を促進し、中央アジアの文化に親しむ機会を提供しました。研究会との連携という面では、10月に日本ロシア文学会が筑波大学・オンライン大会として開催された際に、同学会と共催で、各国の文学の専門家を招いて、日本ロシア文学会第71回全国大会プレシンポジウム「消えゆく記憶と繋がり—ソ連崩壊後30年の文学と社会を語る—」を行いました。シンポジウムはYouTubeにて録画配信し、1ヶ月で1,102回の再生回数が記録されました。3月には、IEPS（国際体育・スポーツ連盟）との共催で、IEPS（国際体育・スポーツ連盟）アジア第4回国際学術会議の講演会を開催しました。その他、NipCAプロジェクト教員・スタッフは国内学会に1件、国際学会に3件参加するなど、ユーラシア研究ユニット活動も堅実に推進しました。

こうしたイベントの活動は全て、本プロジェクト HP (<https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>) において、日本語・英語・ロシア語による活動報告を掲載しています。また、第1期 NipCA フェ

ローが修了したことで、ウェブサイトに「The NipCA Alumni Association」のページを設け、NipCA Alumni Network も発足させました。今後は、日本財団、日本・中央アジア友好協会と連携する有機的なネットワーク構築のため活用していきます。

NipCA プロジェクト 3 年目は、依然として新型コロナウイルス感染症が収束せず派遣・受入事業を実施できない中、活動の中心としてオンライン講演会をはじめとする多くのイベントを実施し、年次計画の目標を達成し、前年度以上の十分な成果をあげることができました。

最後に、本プロジェクトに多大なご支援と温かいご理解を頂戴している公益財団法人日本財団の笹川陽平会長に対して、衷心より深謝申し上げます。また、日頃から本プロジェクトを陰に陽に力強く支えてくださっている森祐次常務理事、有川孝国際事業部長、国際事業部の沼田雅子氏、そして日本・中央アジア友好財団（JACAFA）のヴルボスキ京子会長に対して、心から厚く感謝申し上げます。

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」

令和3(2021)年度 活動計画および活動実績(2021.4~2022.9)

項目	活動計画	活動内容
NipCA プロジェクト 継続(2021年4月)	2021年4月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」3年目を開始する。	公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2021年4月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」3年目を開始した。
運営体制の維持・継続(2021年4月~)	学位取得を目的する正規留学生の受入業務という新しいミッションを持ったNipCAプロジェクトを軌道に乗せ、事業を安定的に推進し、本プロジェクト運営を確実なものにするために、前年度と同程度以上の教職員数の雇用を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ① 本プログラム担当専任准教授(SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務、プロジェクト全体の企画・運営の推進等)を1名継続雇用した。 ② 2021年2月より本プログラム担当専任助教(SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務等)を1名継続雇用した。 ③ University International Administrator(NipCA プロジェクトコーディネーター、広報・企画・運営等担当)を1名継続雇用した。 ④ 非常勤研究員(中央ユーラシア留学生学務・生活支援担当、中央ユーラシア海外研修・海外インターンシップ等国際交流実務支援担当、論文指導サポート担当)を2名、非常勤事務職員(会計・総務担当)を2名継続雇用した。 ⑤ 2021年11月より非常勤研究員(新規プロジェクト担当、翻訳担当)を2名新規雇用した。
NipCA Alumni Network 発足 (2021年4月~)	2021年3月に筑波大学大学院を修了した第1期NipCAフェローを中心として、日本財団、日本・中央アジア友好協会と連携する有機的なネットワーク構築のため、NipCA Alumni Network を発足した。	NipCA Alumni Association では、本プロジェクト内のウェブサイト「The NipCA Alumni Association」を活用して、日本でのSDGs 関連イベントや各 NipCA フェローが従事する活動の情報を提供し、フェローが積極的に参加することを促す他、本プロジェクトが今後展開する事業に協力することを要請する。また、Network 発足に合わせ、NipCA プロジェクトのロゴデザインも作成する。
SDGs 資料室整備 (2021年4月~)	NipCA フェローが研究を進めるためのSDGs 資料室の環境を整え、参考文献を購入する。	NipCA フェローが研究を進める上でのSDGs 資料室の環境を整え、修士論文を執筆する上での参考文献希望図書リストを作成し英語文献を中心に購入する。
広報活動 (2021年4月~)	本事業を学内外に広報するために、ニューズレター作成、および専用ウェブサイトでの広報活動を行う。	① 「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」のニューズレターを刊行する。また、「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」ウェブサイトの日本語・英語・ロシア語記事を充実させ、中央アジアの多言語化を進める。

		<p>https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp</p> <p>② Newsletter 「中央アジアと日本」 5号 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年10月刊行 部数：300部</p>
<p>出版物 (2021年4月～)</p>	<p>Nipca プロジェクト周知も兼ね、広報誌であるニューズレター以外の出版物も充実させ、ISBNを交付して刊行する。</p>	<p>① 公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」第11回講演会冊子モンゴル語版 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年4月1日（木） 部数：100部</p> <p>② 公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」第19回講演会冊子 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年4月15日（木） 部数：150部</p> <p>③ 公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」第20回講演会冊子 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年4月30日（金） 部数：200部</p> <p>④ 公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」第21回講演会冊子 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年5月15日（土） 部数：200部</p> <p>⑤ 公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」第22回講演会冊子 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年5月30日（日） 部数：200部</p> <p>⑥ 公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」第24回講演会冊子</p>

		<p>発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2021年6月30日（水） 部数：200部</p> <p>⑦ NipCA プロジェクト主催「オンラインによるロシア・中央アジア映画上映会」第1～3回上映会 報告書 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2022年9月20日（火） 部数：400部</p>
<p>学会参加 (2021年4月～)</p>	<p>NipCA プロジェクトに関わる本学人文社会系中央ユーラシア研究ユニットの教員・院生に対し、研究推進を後押しする目的で、国際学会参加への支援を行う。また、本プロジェクトに直接寄与する中央ユーラシアの研究者に対しても、可能な範囲で支援する。</p>	<p>① 会議名：65th Annual Meeting of the Comparative and International Education Society (CIES Conference 2021) 日時：2021年4月25日（日）～5月2日（日） 発表者：山本 祐規子 准教授（筑波大学 人文社会系） 題目：Factors Related to Productivity and Study Environment of Remote Learning under the Covid-19: A Case of Undergraduate Students in Japan 形態：Zoom</p> <p>② 会議名：日本言語政策学会（JALP）第23回研究大会 パネル1 「SDGsと言語政策—地方自治体の多文化共生施策としての多言語対応を考える—」 日時：2021年6月12日（土）15:15～16:45 発表者・題目：森 祐介 氏（つくば市 政策イノベーション部 部長）「SDGs 未来都市つくばにおける行政サービスの多言語対応」、澤田 浩子 准教授（筑波大学 人文社会系）「多文化共生時代の教育における共創と循環—茨城県グローバル・サポート事業の事例から—」、山川 和彦 教授（麗澤大学 外国語学部） 「SDGs 未来都市と自治基本条例に見る言語事象—ニセコ町と石垣市を事例として—」、白山 利信 教授（筑波大学 人文社会系）「SDGsの達成に貢献する言語政策—地方自治体の「共生計画」としての多言語対応—」 形態：Zoom</p> <p>③ 会議名：14th Annual Meeting of the International Conference of Education, Research and Innovation (ICERI 2021) 日時：2021年11月8日～9日 発表者：イスマイロフ・ムロッド助教（CEGLOC）、山本 祐規子 准教授（筑波大学 人文社会系）</p>

		<p>題目: What Makes and Effective Learner-Centred EMI Classroom in Higher Education? A Qualitative Systematic Examination of Students' Perceptions Using Thematic Synthesis Approach</p> <p>形態: Zoom</p> <p>④ 会議名: 文明のクロスロード 14「比較類型論研究のプリズムを通して、異なる文化、民族性、言語の相互理解」</p> <p>日時: 2022年3月4日~5日</p> <p>発表者・題目: 白山 利信 教授 (NipCA プロジェクト実務責任者)、小山 正吾 氏 (人文・文化学群 人文学類言語学4年)「現代ロシア語形容詞短語尾形のアクセントの類型について」、小野 正樹 教授 (NipCA プロジェクト実務副責任者)、日暮 康晴 氏 (人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 (博士後期課程) 国際日本研究学位プログラム1年「オンライン日本語初級会話データベース型教材『にほんごアベニュー』の開発」、梶山祐治 UIA (NipCA プロジェクトコーディネーター)</p> <p>「映画史における日本と中央アジアの関係」、Dr. SOIPOV Jasur (NipCA プロジェクト研究員)「Brief Picture of Uzbek Students in Japan from 1994 to 2019」</p> <p>形態: Zoom</p>
<p>公開講演会 「中央ユーラシアと日本の未来」 (2021年5月~)</p>	<p>本事業の広い意味での地域社会貢献と、NipCA プロジェクトのフェローシップのみならず、学内の教職員、学外の研究者・学生たちへの問題意識の喚起を促す目的で、中央ユーラシア地域と日本が抱える社会的な課題や地球規模的課題に係るテーマで、有識者による公開講演会を実施する。筑波大学SGU 事業の一環として実施。</p>	<p>「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」主催連続公開講演会「中央ユーラシアと日本の未来」をオンラインで開催。当日ライブ視聴できなかった視聴者のために、manaba にて2週間限定で講演動画を配信した。</p> <p>① 講師: 山田浩司氏 (JICA プータン派遣専門家、武蔵野大学客員教授)</p> <p>テーマ: 内陸山岳国プータン向け開発協力の展望</p> <p>開催日: 2021年5月21日 (金) 16:00~17:15</p> <p>形態: Zoom</p> <p>申込者数 115名 (参加者数 72名)</p> <p>② 講師: 関根久雄氏 (筑波大学 人文社会系長)</p> <p>テーマ: SDGs の視点から太平洋島嶼地域の開発問題を考える</p> <p>開催日: 2021年6月18日 (金) 13:45~15:00</p> <p>形態: Zoom</p> <p>申込者数 119名 (参加者数 83名)</p>

		<p>③ 講師：山本契太氏（北海道ニセコ町副町長） テーマ：SDGs 未来都市・環境モデル都市ニセコ町の未来をつくる取り組み 講師：中谷知記氏（北海道ニセコ高校教諭） テーマ：地域で取り組む多様性を育む教育 開催日：7月8日（木）13:45～15:00 形態：Zoom 申込者数 108 名（参加者数 65 名）</p> <p>④ 講師：岡本能里子氏（東京国際大学 国際関係学部 教授） テーマ：多文化共生社会ニッポンにおけるコミュニケーション課題—多様性に拓かれた言葉の教育を考える— 開催日：2021年7月26日（月）15:15～16:30 形態：Zoom 申込者数 124 名（参加者数 86 名）</p> <p>⑤ 講師：松下聖氏（近畿大学 グローバルエデュケーションセンター 特任講師） テーマ：大学のグローバル人材育成事業を成功に導くために—実務者の観点から考えるプロジェクト運営の方法論— 開催日：2021年8月2日（月）15:15～16:30 形態：Zoom 申込者数 86 名（参加者数 62 名）</p> <p>⑥ 講師：矢澤真人先生（筑波大学 人文社会系 教授） テーマ：日本語デジタル辞書研究の最前線 開催日：2021年8月24日（火）13:45～15:00 形態：Zoom 申込者数 108 名（参加者数 65 名）</p> <p>⑦ 講師：武田善憲氏（外務省 中央アジア・コーカサス室長） テーマ：コロナ禍における日本の対中央アジア外交 開催日：2021年9月10日（金）13:45～15:00 形態：Zoom 申込者数 149 名（参加者数 105 名）</p> <p>⑧ 講師：松田良孝氏（ジャーナリスト） テーマ：他民族社会としての石垣島から考える SDGs</p>
--	--	---

		<p>開催日：2021年9月16日（木）15:15～16:30</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数115名（参加者数76名）</p> <p>⑨ 講師：相馬拓也氏（京都大学 白眉センター 特定准教授） テーマ：シルクロードに伝わる秘儀、騎馬鷹狩文化の起源を求めて～イヌワシとカザフ族イーグルハンターの出会いと別れの物語～</p> <p>開催日：2021年10月18日（金）13:45～15:00</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数76名（参加者数48名）</p> <p>⑩ 講師：稲田 喬晃 氏（写真家） テーマ：旅するフォトグラファー ～写真・映像表現とアカデミズムの融合が生み出す突破力～</p> <p>開催日：2021年10月18日（金）13:45～15:00</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数93名（参加者数74名）</p>
<p>JACAFA 日本研修 プログラム （2021年6月）</p>	<p>NipCA プロジェクトと JACAFA（日本・中央アジア友好協会）と連携・協力し、JACAFA 同窓生のための日本研修プログラムを実施する。プログラムの中に、本学 GENIS プログラム生とのラウンドテーブルや、本学の研究施設等視察の機会を提供する。</p>	<p>*新型コロナウイルス禍により10月に延期</p>
<p>新入生に贈るオンライン講演会 （2021年7月）</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、未だ対面での活動が制限されている新入生のため、特別講演会をオンラインで開催する。</p>	<p>オンライン教育を受け続けて奮闘している新入生のためにエールを贈り、今後のキャンパスライフへの活力と知的好奇心の向上に繋がられるような機会を提供する。主催は筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」。グローバル・commons機構、グローバルコミュニケーション教育センター、スーパーグローバル大学(SGU) 事業推進室との共催、筑波大学学生部、国際室との協力でオンラインで開催する。当日ライブ視聴できない学生のために、manaba にて2週間限定で講演動画を配信する。</p> <p>講師：當作靖彦氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校 教授） テーマ：ウィズコロナ、アフターコロナ時代をたくましく生きるために—大学時代に学ぶべきこと、考えるべきこと—</p>

		<p>日時：2021年7月12日（月）13:45～15:00</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数 165名（参加者数 121名）</p>
<p>NipCA プロジェクト 主催「ロシア・中央 アジア映画上映会」 (2021年8月～)</p>	<p>SDGs の理解推進と中央アジアの文化紹介を兼ねて、ロシア・中央アジアの未公開作品に字幕をつけて日本初上映し、解説も行う。</p>	<p>① 上映作品：フィリップ・ユurieフ『キットボーイ』（2020年、93分）</p> <p>日時：2022年2月4日（金）18:00～18:27</p> <p>作品解説：梶山 祐治 UIA（NipCA プロジェクト コーディネーター）「ユーラシア極地の映像から考える貧困・格差・国境問題」</p> <p>形態：Zoom</p> <p>18:27～20:00</p> <p>フィリップ・ユurieフ『キットボーイ』上映</p> <p>会場：ULIZA</p> <p>申込者数 505名（参加者数 349名）</p>
<p>海外研修 (2021年8月～)</p>	<p>学生への現地でのロシア語学習の機会を提供し、キルギス・カザフスタンへの研修を実施する。</p> <p>また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修および留学報告会を開催する。</p>	<p>*新型コロナウイルス禍により中止</p>
<p>NipCA フェローシップ生受入（2021年10月）</p>	<p>筑波大学人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム修士課程の入試合格者であるNipCAフェローシップ生6名が入学する。</p>	<p>筑波大学人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラムにNipCA フェローシップ生6名が入学した。フェローシップ申請者数は全125件あった。</p>
<p>シンポジウム開催 (2021年10月)</p>	<p>日本ロシア文学会第71回全国大会が筑波大学・オンライン大会となることを受け、日本ロシア文学会との共催でプレシンポジウムを開催する。</p>	<p>① 2021年日本ロシア文学会全国大会プレシンポジウム「消えゆく記憶とつながり—ソ連崩壊後30年の文学と社会を語る—」</p> <p>日時：2021年10月29日（金）17:30～19:30</p> <p>共催：日本ロシア文学会</p> <p>形態：Zoom</p> <p>登壇者：貝澤 哉 氏（早稲田大学 文学学術院 教授）、奈倉 有里 氏（早稲田大学 非常勤講師）、越野 剛 氏（慶應義塾大学 文学部 准教授）、守屋 愛 氏（お茶の水女子大学 非常勤講師）、五月女 颯 氏（日本学術振興会特別研究員、京都大学）、黒沢歩（ラトビア語翻訳家）、坂井 弘紀 氏（和光大学 表現学部 教授）、河原 弥生 氏（東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 准教授）</p> <p>司会：梶山 祐治 UIA（NipCA プロジェクト コーディネーター）</p>

		参加者数 407 名 (Zoom46 名、YouTube361 名) YouTube 再生回数 1102 回 (視聴期間: 2021 年 11 月 30 日まで)
第 3 回運営委員会 (2021 年 11 月)	Ge-NIS+ 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」 「ロシア・日本人材育成プロジェクト」 令和 2 年度第 2 回 プロジェクト運営委員会を開催し、本プロジェクトの承認を受ける。	日時: 2021 年 11 月 18 日 (木) 13:00~13:45 形態: Zoom 出席委員: 出席委員: 加藤 光保 副学長 (教育担当)・理事・グローバル教育院長 (運営委員会委員長)、ベントン・キャロライン 副学長 (国際担当)・理事・グローバル・コモンズ長 (運営委員会副委員長)、原 晃 副学長 (医療担当)・理事・附属病院長 (運営委員会副委員長)、関根 久雄 大学執行役員・人文社会系長、井田 仁康 大学執行役員・人間系長、大根田 修 大学執行役員・国際室長、桑原 達也 副理事 (国際担当)、水野 晴央 教育推進部長、関 瑞穂 学生部長、倉橋 節也 ビジネス科学研究群長、大倉 浩 人文・文化学群長、鄭 仁豪 人間学群長、木塚 朝博 体育専門学群長、臼山 利信 NipCA プロジェクト実務責任者・人文社会系 教授・グローバルコミュニケーション教育センター長、ダダバエフ・ティムール NipCA プロジェクト協力教員・人文社会系 教授、菊池 勇次 教育推進部 教育推進課長、鈴木 寛之 国際局 国際室 担当課長、安達 理佳 国際局 グローバル・コモンズ 担当課長、関本 啓子 学生交流 課長、鈴木 早苗 人文社会エリア支援室長、迎 和博 医学医療エリア支援室長
公開講演会 Special Lecture and Discussion シ リーズ “The Road to Digital Transformation to Change Society” (2021 年 11 月~)	デジタル技術を駆使し、地域課題および地球規模課題の解決・改善に取り組む様々な事例などを学ぶことを通じて、社会変革を推進する人材育成を目指す公開講演会を開催する。筑波大学 SGU 事業の一環として実施。	① 講師: 新保史生氏 (慶應義塾大学 総合政策学部 教授) テーマ: 行政のデジタル変革を進めるために—デジタル改革 関連法と課題解決の視点— 日時: 2021 年 11 月 11 日 (木) 17:00~18:30 形態: Zoom 申込者数 66 名 (参加者数 48 名) ② 講師: 須藤 修 氏 (中央大学 ELSI センター 所長・国際情報学部 教授) テーマ: 日本の電子政府化がなぜ必要なのか—IT 人材の民への偏在脱却と公共 DX の発展— 日時: 2022 年 1 月 11 日 (火) 17:00~18:30 形態: Zoom 申込者数 66 名 (参加者数 43 名) ③ 講師: 水島 司 氏 (東京大学 名誉教授) テーマ: 時空間情報研究 (H-GIS) の課題と可能性 日時: 2022 年 1 月 28 日 (金) 17:00~18:30 形態: Zoom

		<p>申込者 60 名 (参加者 47 名)</p> <p>④ 講師：安部 原也 氏 (一般財団法人 日本自動車研究所・筑波大学 教授)</p> <p>テーマ：自動車運転導入に向けたヒューマンエラーの分析と交通事故防止</p> <p>日時：2022 年 2 月 17 日 (木) 17:00～18:30</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者 45 名 (参加者 34 名)</p>
<p>公開講演会 Special Lecture and Discussion シ リーズ “Central Eurasian Studies In East Asia And Beyond” (2022 年 1 月～)</p>	<p>日本や東アジア地域の中央ユーラシア研究を英語で紹介し、本分野の研究と人材育成を推進するため、公開講演会を開催。筑波大学 SGU 事業の一環として実施。</p>	<p>① 講師：Professor Dadabaev Timur, Dr. Akhmedova Mukaddam (University of Tsukuba)</p> <p>テーマ：Pre-publication seminar "The Grass is Always Greener? Unpacking Uzbek Migration to Japan"</p> <p>日時：2022 年 1 月 18 日 (火) 12:15～13:30</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数 81 名 (参加者数 39 名)</p> <p>② 講師：Dr. Sultanalieva Syinat (Human Rights Watch)</p> <p>テーマ：Women's rights activism in Kyrgyzstan</p> <p>日時：2022 年 1 月 24 日 (月) 17:00～18:30</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数 107 名 (参加者数 42 名)</p> <p>③ 講師：浜 由樹子 氏 (静岡県立大 国際関係学部 准教授)</p> <p>テーマ：Neo-Eurasianism and Russia's Vision of the International Order</p> <p>日時：2022 年 2 月 7 日 (月) 12:15～13:30</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数 143 名 (参加者数 38 名)</p> <p>④ 講師：宇山 智彦 氏 (北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授)</p> <p>テーマ：How to make the international community of Central Asian studies coherent? Overcoming the gap between Western-centrism and nationalism.</p> <p>日時：2022 年 2 月 14 日 (月) 12:15～13:30</p> <p>形態：Zoom</p> <p>申込者数 230 名 (参加者数 60 名)</p>

		<p>⑤ 講師：園田 茂人 氏（東京大学 東洋文化研究所 教授） テーマ：Central Eurasian Studies in East Asia and Beyond 日時：2022年2月21日（月）12:15～13:30 形態：Zoom 申込者数249名（参加者数47名）</p> <p>⑥ 講師：①Dr. Urinboyev Rustam(Lund University), ②Dr. Eraliev Sherzod(University of Helsinki) テーマ：①"Understanding and Theorizing Migrants' Experiences in Non-Western, Non-Democratic Migration Regimes: Central Asian Migrant Workers in Russia and Turkey" ②"Central Asian Migrant Workers in Russia and Turkey: Differences in Gender Perspectives" 日時：2022年3月18日（金）15:00～16:15 形態：Zoom 申込者数272名（参加者数38名）</p>
<p>第3回 外部評価委員会 (2022年2月)</p>	<p>Ge-NIS プログラムでの外部評価の経験を踏まえて、外部評価委員会が本プロジェクトの実施状況を評価するとともに、同委員会と本プロジェクト実務者が改善に向けた協議を行う。</p>	<p>外部評価委員：カリフォルニア大学サンディエゴ校 當作 靖彦 教授、育英短期大学 小野澤 正喜 教授、国際協力機構 東・中央アジア部 中里 太治 部長、外務省欧州局 中央アジア・コーカサス室 武田 善憲 室長、つくば市市民部 市民活動課 国際交流室 村山 えりか 室長 日時：2022年2月10日（木）10：00～12：00 形態：Zoom</p>
<p>国際会議開催 (2022年3月)</p>	<p>FIEPS（国際体育・スポーツ連盟）アジア 第4回大会が開催されることに伴い、同連盟と共催にて、国内外から専門家やアスリートを複数名招き、スポーツおよび包括と多様性についての講演とディスカッションの場を設け、オンラインにて一般公開する。</p>	<p>FIEPS（国際体育・スポーツ連盟）アジア 第4回国際学術会議 基調講演会 ” Sports, PE and Communication: Inclusion and Diversity in the Olympics and Paralympics Year ～Our conference is supporting SDGs’～“ 日時：2022年3月5日（土）14:25～16:25 2022年3月6日（日）11:30～13:00 共催：FIEPS（国際体育・スポーツ連盟） 形態：Zoom 【3月5日（土）14:25～16:25】 1. Branislav Antala Comenius University, Bratislava, FIEP World International Vice-president</p>

		<p>Title: Physical Education in Active School - Problems and its Perspectives during and after the Corona Pandemic</p> <p>2. R. Bernstein Eve Queens College, City University of New York, USA Title: Intercultural Sensitivity Stages as Applied to Competitive Activities During Middle School Physical Education Class</p> <p>3. Novak Dario University of Zagreb, Croatia Title: Physical Education In Europe: Preliminary Findings From the 4th Worldwide Survey of Quality Physical Education</p> <p>☆ Kunieda Shingo [Special interview] Professional Wheelchair Tennis Player, 2020 Tokyo Paralympic Games Gold Medalist</p> <p>【3月6日（日）11:30～13:00】</p> <p>4. Nagura Toshihisa World Karate Federation (WKF), General Secretary Title: Karate, new landscape after Tokyo 2020 Olympic Games</p> <p>5. Aleksandar Ignjatovic University of Kragujevac, Serbia Title: Physical education changes over time</p> <p>6. Horiuchi Kazunobu Reitaku University, Japan, Vice-President Title: A Layman's Theory of Budo Illustrated by Comparison of Kyudo and Western Archery</p>
<p>海外研修 (2022年3月)</p>	<p>医学群の学生を対象に、医学医療視察研修を実施し、ロシア(モスクワ)及びカザフスタン(ヌルスルタン・アルマトイ)の医科大学や医療機関、研究機関などを訪問する。</p>	<p>*新型コロナウイルス禍により中止</p>
<p>NipCA フェローシップ生受入 (2022年4月)</p>	<p>筑波大学人間総合科学研究群公衆衛生学学位プログラム修士課程の入試合格者であるNipCAフェロー</p>	<p>筑波大学人間総合科学研究群公衆衛生学学位プログラムに NipCA フェローシップ生1名が入学した。</p>

	シップ生1名が入学する。	
SDGs 研修： 北海道研修 (2022年7月)	人文社会科学研究科国際地域研究専攻開設科目である「日本企業インターンシップ」(1単位)の教育活動として実施する。	開催日：2022年7月12日(火)～15日(金) 訪問先：北海道後志総合振興局、ニセコ町役場、ニセコ高校、(株)ニセコ環境 参加者数：14名(第2期NipCAフェロー7名、第3期NipCAフェロー6名、第4期NipCAフェロー1名) 担当教員：人文社会系 白山 利信 教授、麗澤大学 山川 和彦 教授、人文社会系 山本 祐規子 准教授
第2期笹川フェロー 修了式(2022年9 月)	大学院修士課程を修了する第2期NipCAフェローが、第2期笹川NipCAフェロー修了式に出席するとともに、日本財団笹川陽平会長に対して、帰国前にお礼と感謝のご挨拶を行う機会を設ける。	筑波大学大学院人文社会科学研究科国際地域研究専攻修士課程Special Program in Japanese and Eurasian Studies (SPJES)を修了した第2期NipCAフェロー7名、第3期NipCAフェロー6名、第4期NipCAフェロー1名が日本財団笹川陽平会長を表敬訪問し、同会長より第2期NipCAフェローには、第2期笹川NipCAフェローとしての認定証が授与された。 日時：2022年9月6日(火) 場所：日本財団ビル(東京都港区) 参加者：第2期NipCAフェロー7名、第3期NipCAフェロー6名、第4期NipCAフェロー1名、人文社会系 白山 利信 教授、人文社会系 山本 祐規子 准教授、学生部 学生交流課 職員 太田 涼子

資料1 NipCA フェローシップ生リスト

人文社会科学研究所 国際地域研究専攻（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和元（2019）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第1期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏名	国籍	研究テーマ	修士論文題目	就職・進路先
1	Boteu Saltanat ボテウ・サルタナート	カザフスタン	Environmental sustainability practices in Japan, its cultural aspects and applicability	Environmentally Friendly Consumption from the Perspective Environmental Entrepreneurs in Kazakhstan	UNDP local office in Kazakhstan, Nursultan, in the communications department as a Communications and Social Media Specialist. Assigned to the UNDP as a UN National Volunteer Specialist.
2	Geldiyeva Mivegozel ゲルディエヴァ・ミヴェゴゼル	トルクメニスタン	Energy security issues in Central Asia	The Emerging Role of Universities in International Relations: A Case Study of the University of Tsukuba	筑波大学大学院 人文社会科学研究群 国際日本研究学位プログラム（博士課程）
3	Muratbekova Aigerim ムラトベコヴァ・アイゲリム	キルギス	Bullying among children in Japanese schools	Exploring the Causes of School Bullying in Kyrgyzstan and Prevention Measures Through Policy and Actor Perspectives	Campus Staff, Every Nation Every Nation Churches & Ministries
4	Qambarova Nilufar カムバロヴァ・ニルファール	タジキスタン	Freedom and Constraints of the Press in Tajikistan	Understanding Gender Roles of Ismaili Pamiri Women in a Traditional Society	Human Centered Design Officer, Local Impact Project, Aga Khan Foundation
5	Aliyeva Tubu アリエヴァ・トゥブ	アゼルバイジャン	A comparative study between Azerbaijan and Japan in order to investigate the role of tourism in economic and environmental sustainability of newly formed states	The Development of Socially Sustainable Urban Tourism in Baku: Exploring Residents' Attitudes	ESP Support Operator/Customer Care SDZ Technologies and Services
6	Zakaryanov Ilyas ザカリヤノフ・イリヤス	カザフスタン	Sustainable development of East Kazakhstan in conditions of regional inequality of the country	Agritourism's Contribution to Sustainable Development in Rural Areas of the Republic of Kazakhstan: A Case Study of the East Kazakhstan Region	Fihugie financial holdng

人文社会科学部 国際地域研究専攻（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和2（2020）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第2期生 日本財団中央アジアフェローシップ 7名

	氏名	国籍	研究テーマ	修士論文題目
1	Abdullayev Ramil アブドゥラエフ・ラミル	アゼルバイジャン	Development of Inclusive Education at the universities of Azerbaijan: State programs and projects	Inclusive Education in State Universities in Azerbaijan: Current Status and Challenges
2	Mukhamejanova Aizhan ムハメジャノヴァ・アイジャン	カザフスタン	The experience of female repatriation in Kazakhstan	The Experience of Female Repatriation in Kazakhstan: A Case Study of the Mangystau Region
3	Nurlan kyzy Aliia ヌルラン・キジ・アリア	キルギス	Gender representation challenges in Kyrgyz politics	Women in Kyrgyz Parliament: The Role of Quota System in Gender Equality
4	Osmonova Gulzada オスモノヴァ・グルザダ	キルギス	The hazardous forms of child labor in Kyrgyzstan	The Perceptions of Child Labor and Its Reasons: A Case of Batken Region, Kyrgyzstan
5	Ospanova Sofya オspanova Sofya	カザフスタン	Cultural approaches: Kazakhstan-Japan Center for Human Development	Organizational Transformation of the Kazakhstan-Japan Center for Human Development
6	Rajabova Manizha ラジャボヴァ・マニジャ	タジキスタン	From Brain Drain to Brain Gain: Motivations of Tajik students to return home	From Brain Drain to Brain Gain: Motivations of Tajik Students to Return Home
7	Suiunbekova Saikal スイウンベコヴァ・サイカル	キルギス	JICA One Village One Product project's impact on women empowerment in rural socio-economic life	The Impact of JICA's "One Village One Product" Project on the Contribution of Females to Household Income in the Issyk-Kul Region, Kyrgyzstan

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和3（2021）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第3期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏名	国籍	研究テーマ	指導教員
1	Bazarova Asal バザロヴァ・アサル	ウズベキスタン	The role of women' s organization in promoting female entrepreneurship in Japan	山本祐規子
2	Malakbozova Munira マクボーゾヴァ・ムニラ	タジキスタン	Analysis of efficient policies for elimination of gender inequality in the labor market of Tajikistan	塩谷哲史
3	Nyussupov Assylzhan ニュスポフ・アルジャン	カザフスタン	Regional identity in Central Asia	タック川崎レスリー
4	Mavlonova Maftunakhon マヴロノヴァ・マフトナホン	ウズベキスタン	Lifelong learning in Uzbekistan: the importance, challenges and possible solutions	山本祐規子
5	Smanova Nargiza シマノヴァ・ナルギザ	カザフスタン	Female political in Japan and Kazakhstan: similarities and differences	タック川崎レスリー
6	Suvanova Yulduzkhon スヴァノヴァ・ユルツズホーン	ウズベキスタン	The role of international financial institutions in reducing poverty and curbing inequality	ダダバエフ・ティムール

医学医療系 公衆衛生学学位プログラム（修士課程）
 Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies
 令和4（2022）年度4月入学者
 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第4期生 日本財団中央アジアフェロースhip 1名

	氏名	国籍	研究テーマ	指導教員
1	Badiyeva Aizada バディエヴァ・アイザダ	カザフスタン	Effects on Children Exposed to Radiation through their Parents in Semipalatinsk with an emphasis of congenital heart defects. Prevention and/or reduction methods	我妻ゆき子

資料2 令和3（2021）年度 プロジェクト運営委員会委員リスト

敬称略

	役割等	氏名	所属・役職
1	委員長	加藤 光保	理事・副学長（教育担当） グローバル教育院長
2	副委員長	ベントン キャロライン	理事・副学長（国際担当） グローバル・commons機構長
3	副委員長	原 晃	理事・副学長（医療担当）・附属病院長
4	委員	関根 久雄	大学執行役員・人文社会系長
5	委員	川上 康	大学執行役員・医学医療系長
6	委員	西保 岳	大学執行役員・体育系長
7	委員	井田 仁康	大学執行役員・人間系長
8	委員	大根田 修	大学執行役員・国際局国際室長
9	委員	坪内 孝司	大学執行役員・教学デザイン室長
10	委員	桑原 達也	副理事（国際担当）
11	委員	水野 晴央	教育推進部長
12	委員	関 瑞穂	学生部長
13	委員	平松 祐司	附属病院副病院長・同院国際医療センター長 医学医療系教授
14	委員	竹中 佳彦	学長補佐室長・人文社会科学研究群長
15	委員	倉橋 節也	ビジネス科学研究群長

16	委員	大倉 浩	人文・文化学群長
17	委員	土井 隆義	社会・国際学群長
18	委員	鄭 仁豪	人間学群長
19	委員	木塚 朝博	体育専門学群長
20	委員	田中 誠	医学群長
21	委員	梼 正幸	医学類長
22	委員	白山 利信	本プロジェクト実務責任者・人文社会系教授 国際公共政策学位プログラムリーダー
23	委員	小野 正樹	本プロジェクト副実務責任者・グローバルコミュニケーション教育センター長・人文社会系教授
24	委員	加藤 百合	本プロジェクト副実務責任者・人文社会系教授
25	委員	ダダバエフ ティムール	本プロジェクト協力教員・人文社会系教授
26	委員	菊池 勇次	教育推進部教育推進課長
27	委員	福田 正浩	国際局国際室担当課長
28	委員	高橋 浩一	国際局グローバル・commons担当課長
29	委員	関本 啓子	学生部学生交流課長
30	委員	鈴木 早苗	人文社会エリア支援室長
31	委員	迎 和博	医学医療エリア支援室長

資料3 令和3年(2021年)度 外部評価委員会委員

敬称略

	役割等	氏名	所属・役職
1	委員長	當作 靖彦	カリフォルニア大学サンディエゴ校 教授
2	副委員長	小野澤 正喜	育英大学・育英短期大学理事、教授
3	委員	中里 太治	国際協力機構 東・中央アジア部長
4	委員	武田 善憲	外務省欧州局 中央アジア・コーカサス室長
5	委員	岸田 和克子	つくば市長公室 国際都市推進課長

資料4 令和3年(2021年)度 プロジェクト・スタッフリスト

敬称略

運営体制	氏名	職位・役職	役割
プロジェクト実務責任者	白山 利信	人文社会系 教授	全体統括
プロジェクト実務副責任者	小野 正樹	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト実務副責任者	加藤 百合	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト担当教員	山本 祐規子	人文社会系 准教授	プロジェクト推進業務担当
プロジェクト担当教員 ※2022年6月30日に退職済み	インセバリエヴァ サビーナ	人文社会系 助教	教育業務等担当
プロジェクトコーディネーター	梶山 祐治	インターナショナル・ アドミニストレーター	広報・企画・運営等担当
実務スタッフ	グロマリエフ シラリ	非常勤研究員	留学生サポート担当
実務スタッフ	インセバリエヴァ ナフィーサ	非常勤研究員	論文指導サポート担当
実務スタッフ	ソイポフ ジャスル	非常勤研究員	新規プロジェクト担当
実務スタッフ ※2022年8月31日に退職済み	ゲルディエヴァ ミヴェゴゼル	非常勤研究員	翻訳担当
支援スタッフ	古徳 あき子	非常勤職員	会計担当
支援スタッフ	谷越 祥子	非常勤職員	総務担当

【場 所】 共同研究棟 A-203

【連絡先】 電話：029-853-4251, 6570 / Email：info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

令和3年度(2021.4～2022.9)
(半年間延長の特別措置を含む)

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA プロジェクト)
Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource Development Project
事業報告書

2023年3月1日発行

監 修 臼山 利信
編集・校正 梶山 祐治 (主担当)、山本 祐規子、谷越 祥子
発 行 者 臼山 利信
発 行 所 筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」
茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel: 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 メディア情報株式会社



日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
(NipCA Project)
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学
Tel. 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>